

●個別学習  
■児童生徒実践型

実践タイトル 長期入院生徒の床上学習における実践

本時のねらい

長期の入院で、寝たまま天井だけを見て過ごさなければならない生徒が、明るい表情を少しでも取り戻せるようにしたい。アームでベッドに固定したタブレットPCで、仲間や先生からのビデオレターを見ることや、ビデオを選択するために指を積極的に動かしたり、映像を介して自ら話そうとしたりするきっかけをつくる。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

タブレットPC

軽量のため、アームを使えば顔の正面で映像を見ることができ、指一本で操作できる。撮影も再生も1台でできるため、病室への持ち運びも容易である（病院へも申し入れて病室への持ち込みと使用許可をいただけた）。

PC教材

動画は、手紙や録音機能だけでは伝わらない表情や動きなど、伝い手の思いがより表現できる媒体である。また、活用した和太鼓型リズム・アクションゲームはタップする面が太鼓なので大きく、指を動かす動作に負担が少なく、楽しみながらタップ・ドラッグの動きを覚えることができるので、この先の活動につながる見通しが持てる。

参考にしてほしいポイント

病弱の特別支援学校での実践だが、クラスから諸事情により離れた生徒や不登校の生徒等にも応用可能な事例である。大きな情報機器を持ち運ぶことなく、病室と外・教室と病室、人と人を容易に繋ぐことができるツールとしての可能性があると考えられる。また、行動が制限されたなかでも、利用できるメリットがある。

学習の流れ(分)		主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の展開	導入 0 5	○タブレットPCを触ってみる。(写真1) ○仲間や先生からのビデオレターがあることを知らせる。 ○映像や写真のフォルダーを開き、ビデオファイルの開き方を説明しながら操作を一緒に行う。(写真2)	・タブレットPC ・動画(ビデオレター) (操作方法が分からない場合は説明するが、直感的に動かせるので、動かすのも楽しんでできるように声かけをする)
	展開 30	○本人が開く順番でビデオレターや写真を一緒に楽しむ。 撮影の時の様子を伝えたり、ビデオの補足をしながら、本人の発言を促す。	・タブレットPC ・動画(ビデオレター) (撮影の様子などを知らせながら、自分も様子を知らせてみたいという思いの足がかりにできるようにする)
	まとめ 50	○ビデオレターの内容を元に、学校の様子などを話す。 ○ゲームアプリをしながら、タブレットPCの使い方に慣れる。(写真3)	・ゲームアプリ(和太鼓型リズム・アクションゲーム)(タブレットPCを使った活動に見通しが持てたり、楽しみにできるようにする)



写真1: 触って操作の仕方に慣れる



写真2: 生徒と視点を一緒にしながら活動する



写真3: 位置を工夫しながらゲームを楽しむ

児童生徒の反応

ベッド上での生活が3カ月を過ぎ、起き上がることができない状況もあるため、机を利用したり鉛筆で書くことも難しい。そうした日々の生活の中で自分が積極的に動かせたり、病室の中だけの光景から外への世界の入口であるタブレットPCの興味は尽きず、訪れる先生との会話と同様に楽しみにして「もっとやりたい。次楽しみにしてるね」との言葉が聞かれる。

活用効果

評価の観点	情報への関心・意欲・態度
具体的容容	ビデオを見るたびにコメントを付け加え、会話をしようとする姿があり、ビデオが終わるとすぐ指を伸ばし、次の画像を見ようとする姿が見られた。 タブレットPCをすずんで触り、ゲームアプリを立ち上げてみたり、触る中で覚えていこうとする姿があった。

実践の手応え

家庭からの意見として①指を積極的に動かしたり、話をする事で病状の回復が図れるようになった②会話のきっかけになってありがたい③学校の仲間や先生の表情を見ることができたことで、元気な表情を見ることができた、など嬉しい言葉をいただいた。簡単に映像や音声などを使いベッドの上と教室をつないだり、病状により行動に制限があっても比較的容易に扱えるツールとして有効な取り組みであったと感じている。